



すすんで学ぶ子
心豊かな子
たくましい子

中宮

令和5年12月22日
第659号
枚方市立中宮小学校
校長 池原 義人

中宮の子たちは、子どもらしくてよい子ばかりです

ナカミンピック

異学年交流を目的にナカミンピックが行われました。前半戦は日を分けてペア学年による玉入れ、12月14日(木)には全校児童が集まって大玉送りをしました。ペア学年毎の玉入れでは、6年生が1年生と手をつなぎながら競技に取り組んだり、2・5年生では担任がマツケンサンバの仮想をして盛り上げたりするなどとても楽しい取り組みとなりました。3・4年生は運動会の表現運動で協力したペア学年です。準備体操から元気いっぱい、あの素晴らしい表現運動が蘇りました。そして、何より嬉しかったのは大玉送りでの子ども達の笑顔です。1年生から6年生まで、たくさんの笑顔があふれる中、競技を楽しみました。12月15日(金)の児童集会において表彰式があり、児童会代表委員から表彰される子達は、ペア学年毎に手をつないでいます。可愛い、中宮の子達は、子どもらしくて本当に良い子ばかりです。



昔遊び(3年生)



中宮校区福祉委員会にお願いし、3年生に「昔遊び」を教えていただきました。コロナ禍以前は毎年実施していた取り組みですが、今回の開催は4年ぶりとなりました。コマ回し、あやとり、お手玉、まりつき等、昔ながらの遊びを教えていただきました。子ども達も大喜びでしたが、来校いただいた福祉委員会の方々から「可愛かった、楽しかった」と感想を伝えてくださったことが嬉しかったです。年明けの1月には、1年生が同じ体験をさせていただきます。よろしくお願いします。

個人懇談お礼

12月4日(月)から12月8日(金)の5日間、個人懇談を行いました。今学期は参観に運動会にと、子ども達の学校での元気な姿をたくさん見てもらえたので、話はずんだことだと思います。10分から15分程度の短い時間だったと思いますが、有意義な時間となりましたでしょうか。保護者と共有した内容を子ども達の成長につなげてまいります。お忙しいなか、本当にありがとうございました。

校長連絡会で中宮小「担任間による授業交換」の報告をしました

本校が取り組んでいる「担任間による授業交換」について、「校長連絡会で報告してもらいたい」と、教育委員会より依頼を受けました。学習が高度化する高学年において、専門性の高い教科指導を行うとともに、教員の持ちコマ数軽減などの働き方改革を進めるため、文科省主導のもと教科担任制が推し進められています。

小学校で働くまで、中高で保健体育の授業をしていました。同学年の何講座かを担当するので、同じ授業を何度も繰り返すことができました。授業の中で気づいた改善点を、次の授業に活かす。当然のようにしてきたことが、小学校に来てからできなくなりました。毎時間一発勝負の小学校担任は大変だなと思いました。そう思いながら小学校担任を続けてきましたが、できなくはなかったのです。

一学年に複数学級が存在するならば、教科を交換しながら担任しているクラス以外で授業をすることができたのです。そうすることで教材研究も教材準備も、その教科に集中することができます。改善点を、次のクラスの授業で活かすことができるのです。

私が本校に着任する前から中宮小で行われていた「担任間による授業交換」、その方法と効果を知らしめることにより、教科担任制への移行を円滑化することが依頼の趣旨だったのだと思います。

幸い子ども達の反応(右上図アンケート結果)も良好で、良かった理由の中には「わかりやすかった」「詳しく教えてくれる」「色々な先生と関わりが持てる」「いろいろな先生と授業ができて楽しい」「気分転換にもなる」「リフレッシュできる」「いろいろな先生の教え方があっていろいろなことが学べた」等、他にもたくさんの肯定的回答がありました。

ただ、良いことばかりではなく、時間割の調整や各教科の授業時間数の確保などの問題があります。特に3学期は、授業日数も少なく調整が困難な学期になります。授業確保を大前提としながら、子ども達の希望に近づければと考えています。

終業式で「癖」の話をしました

修学旅行、校外学習、運動会など、たくさんの行事が詰まっていた2学期も今日が最終日です。今学期始業式の日(8月25日)、子ども達に「癖」の話をしました。

「人は、無意識のうちにやっている行動が90パーセント、ほとんどのことを、無意識・考えずにやっている。それは、なぜかという、何度も同じことをしていると、それが癖になるからです。そして、その癖のつけ方で、その人間ができあがっていくそうです。宿題も勉強も生活も、しっかりやる癖のついている人とそうでない人、明るく楽しく人と接する癖のついている人とそうでない人。2学期の始まった今日から、いろいろなことの良いところを見つけるようにしましょう。いいところの癖をつけて、遊びも楽しい、遠足も楽しい、運動会も楽しい、勉強も楽しいと思える自分をつくっててください」

始業式の話を終業式でも繰り返して、2学期は楽しかったですかと締めくくりました。夏休み中に受講した校長研修での内容を、児童に合わせて話したのです。

大人である私たち自身も、無意識の発言や行動に驚くことがあります。無意識に出てしまった言い訳、無意識にやってしまった恥ずべき行動、無意識のままに発している「だいじょうぶ?」「ごめんなさい」の言葉、なるほど言えているなど思いました。

あわせて、中宮の子ども達には、無意識な行動(癖)が自分を高めるものであってほしい、無意識な行動が人生を幸せへと導いてくれるものであってほしいと思いました。

あゆみは、本人がどんな「癖」を持っているのか、それを知るヒントになる一つの資料だとお考えください。よい「癖」を積み重ねた結果、本人も納得のいく評価を受けているのなら、それは幸せな人生への歩みを進めていることと捉えられるのではないのでしょうか。また、改善が必要な「癖」を積み重ねた結果が出たと考えるならば、修正するための資料としてください。

あゆみがどんな結果であろうと、「幸せな将来へとつながられるような考え方」も、その子の「癖」になるはず。自己否定やマイナス思考の「癖」につながらないようにお願いします。

担任以外の先生の授業

